

令和5年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

味原小	学校	児童数	41
-----	----	-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	15.31	18.20	32.19	44.33	47.57	9.94	151.57	18.14	51.00
大阪市	15.97	18.72	32.66	38.27	45.10	9.50	147.92	20.35	51.13
全国	16.13	19.00	33.98	40.60	46.92	9.48	151.13	20.52	52.59
女子	14.80	16.84	37.20	45.04	34.24	9.78	150.75	13.96	55.13
大阪市	15.88	17.85	37.44	36.49	34.75	9.74	140.20	12.69	52.67
全国	16.01	18.05	38.45	38.73	36.80	9.71	144.29	13.22	54.28

結果の概要

全国平均・大阪市平均と比べると、男子は、反復横とび、20mシャトルラン、立ち幅とびにおいて上回っており、握力、上体起こし、長座体前屈、50m走、ソフトボール投げにおいては下回る結果となった。特にソフトボール投げでは2m以上下回っている。体力合計点は対全国比-2.59ポイント、対大阪市比-0.13ポイントとなっている。

女子は、反復横とび、立ち幅とび、ソフトボール投げにおいて上回っており、握力、上体起こし、長座体前屈、20mシャトルラン、50m走、においては下回る結果となった。体力合計点は対全国比+0.85ポイント、対大阪市比+2.46ポイントと、なっている。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

これまで冬季体力づくりや運動委員会を中心に実施したスポーツ教室など、体力向上に向けた取組を行ってきた。これまで制限されてきた運動種目も実施できるようになり、運動全般において、本校児童の課題が明らかになった。

男子ではソフトボール投げ、女子では握力、上体起こしが課題となった。来年度の結果を今年度よりも高めるために、年度初めから体力向上に向けた取組を企画・実施していく。たくさん体を動かす機会を増やすために、来年度はスポーツ教室の回数を増やしたり、1学年毎の冬季体力づくりを実施したりする。あわせて、指導者側も児童の課題を念頭に置いた体育科学習を行うため、研修等を通して、指導力向上を図っていきたい。

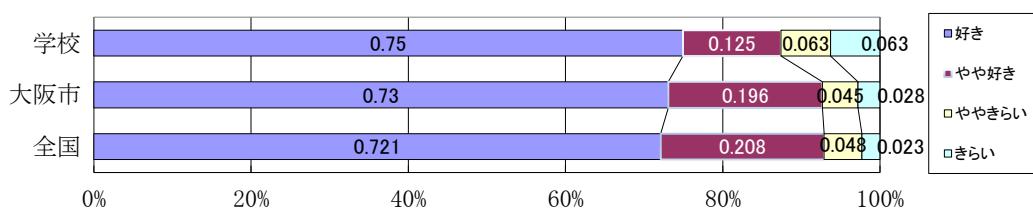
また、1週間の運動時間の合計が60分未満の児童の割合が、男子20%、女子24%と全国比、大阪市比共に高いことが分かった。授業以外にも運動に進んで取り組める機会を更に充実させる必要があり、現在取り組んでいる体力づくりやスポーツ教室の内容を工夫し、参加児童を増やすなどの取り組みを進める。

運動やスポーツについて

本校の特徴的な結果

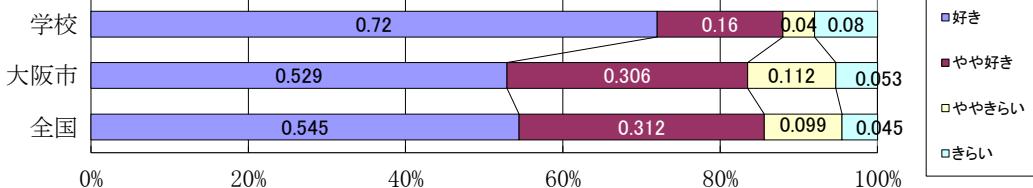
検証項目1

運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。(男子)



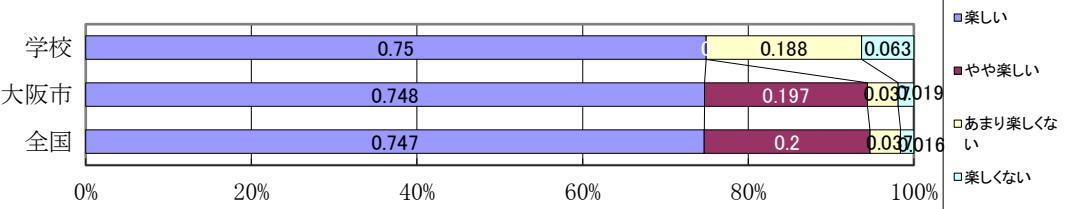
検証項目2

運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。(女子)



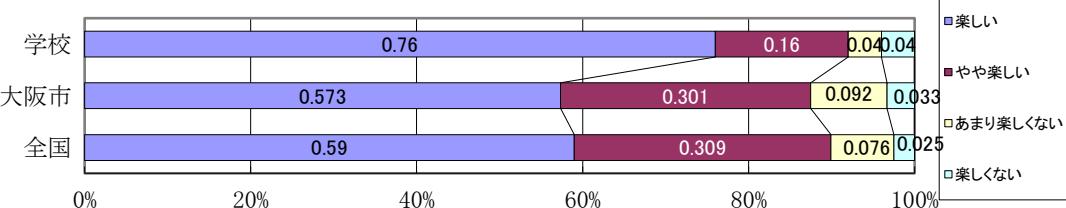
検証項目3

体育の授業は楽しいですか。(男子)



検証項目4

体育の授業は楽しいですか。(女子)



成果と課題

検証項目1・2の結果から、本校児童（5年）は、運動やスポーツなど体を動かすことが「好き」と感じている児童は大阪市・全国の割合より多い。検証項目3・4の結果からは、女子においてほとんどの児童が、体育の授業は「楽しい」と感じているが、男子においては「あまり楽しくない」と感じている児童が女子に比べて多い。これらの児童に対して、体育の授業が楽しいものになるように何らかのアプローチが必要である。

今後の取組

男女ともに児童一人一人が運動は楽しと思えるような運動委員会主催のスポーツ教室の企画運営の充実や、日々の体育科学習の指導法の工夫をする必要がある。そのために体育主任を中心となって実技研修や学習計画に関する見直しを積極的に行っていく。

そして、「自己体力カード」を作成するなど、児童自身が自分の体力に関心をもち、体力を高めようと児童が進んで運動に親しむ機会を充実させる。